

住まいと健康 フォーラムニュース

発行者：住まいと健康フォーラム事務局 第40号
〒108-8638 東京都港区白金台4-6-1 国立保健医療科学院 建築衛生部 '02.10.10.
TEL 03-3441-7111 内276 FAX 03-3446-4723

2002年埼玉フォーラム (公衆衛生学会自由集会)開催のお知らせ

日時 2002年10月24日(木)
午後6時～8時

場所 大宮ソニックシティ
9階 903号室
埼玉県さいたま市桜木町1-7-5
大宮駅西口 徒歩3分

パネラー 青山内科小児科医院 医師 青山 美子 氏

テーマ 『地球環境と化学物質による健康被害』

農薬散布の実態調査報告、及び化学物質による健康被害やアレルギー性疾患の臨床結果等から、地球環境を考えます。

公衆衛生学会に参加の方はもちろん、東京都や近県の方はフォーラム(自由集会)だけでも、ぜひご参加ください。

2002年 全国フォーラム

2002年6月28日(金)に、住まいと健康フォーラムの総会及び全国フォーラムが開催されました。当日は約60名の、環境衛生監視員・保健師・研究者らが集まりました。

メインのシンポジウムでは「ホームレスを取り巻く現状と支援の展望」と題して、国立保健医療科学院の阪東先生のコーディネートで、実践的な活動を行っておられる2名の方から報告をいただきました。内容の一部を報告します。

NPO法人 訪問看護ステーション コスモス 代表 山下 真実子 氏

コスモスは山谷地区(東京都台東区・荒川区の簡易宿泊所が集まっている地域)で活動する訪問看護ステーションです。

山谷地区は、東京オリンピック当時の建築ラッシュ時、バブル期の好景気時は、建設の基盤を支える貴重な労働力であったわけですが、バブル崩壊後は深刻な求人難と高齢化に

悩む地域になっています。山谷の住居状況は、日雇労働者・生活保護受給者は簡易旅館を使えますが、その他の者はブルーシートのテントや段ボールハウスをつくり路上生活者になっていきます。

コスモスは、2000年3月に東京都よりNPO法人の認証を受けました。2002年7月の構成メンバーは看護婦12名、理学療法士1名、事務職員2名です。看護婦が独自に訪問看護ステーションを開設した点が特徴です。

山谷地区で行う訪問看護の仕事は大変ですが、今後の取り組みとして、路上生活者の結核の蔓延が大きな課題です。路上生活者の結核は重症化して発見されることが多く、死に至ることも稀ではありません。治療の継続が困難で、DOT「対面服薬療法」の枠に外れ、放置される感染者もいます。結核根絶のために、取り組みを深めていきます。

ウエルフェアマンション ‘おはな 代表 西口 宗宏 氏

大阪釜ヶ崎は「建設労働者の町」と呼ばれ、地域に2万室ある簡易宿泊所に住む日雇い単身労働者の町でした。いま釜ヶ崎は、長年住み続け、これからも住み続けたいと希望する高齢の元建設労働者が生活支援付きのマンションに住むなどで老後を安心して住むことのできる町に変貌しつつあります。

バブルが崩壊し、1998・1999年、路上生活者や公園テント生活者は急増し、1999年の夏には大阪市の市内野宿者数8600人と発表されました。

この年の出会いで、大阪市に簡易宿所の空室を借り切ってもらいホームレス支援をしようというアイデアが出ました。このアイデアは実現しませんが、この機会からホームレス救済マンションをやろうという機運が生まれ、現在にいたっています。

大阪では生活保護の認定が厳しく、簡易宿所に入っている人間は生活保護を受けられないため、簡易宿所をマンション化する必要があります。

しかし私たちの目指す施設は、単に簡易宿所をマンションに転用するのではなく、共同のリビングルームを設けてコミュニティの基盤作りをしたり、居住者への生活相談や健康相談の体制を整えたりして、サポーターハウスとしての機能を持たせるものです。生活保護を受けさせて、自分の簡易宿所転用マンションのお客にするだけとは違います。

‘おはなでは、モーニング喫茶やビデオなど居住者の交流を図る企画を行うと共に、安否確認や検診の受診など健康面のサポートもしています。

国立保健医療科学院 建築衛生学部 阪東 美智子 氏

ホームレスの数は、平成11年において全国で約2万人だったものが、平成13年に2万4千人を超えています。長期野宿生活者の結核の罹患など、健康状態の悪化が心配され、高齢化も進んでいます。地域との関係も難しく、社会システムから排除されやすくなっています。

ホームレス問題は個人的要因と、社会経済的要因が複雑に絡み合った大都市の構造的課題と言えます。自立支援には行政だけの取り組みでは不十分であり、地域を巻き込んだ運動が必要です。

今回ご報告をいただいた、コスモスの活動や‘おはな の取り組みは、仕組みとしてもとてもうまくつくられているものです。

今後の発展に期待しています。

シックハウス連絡会 会員からの手紙

シックハウス連絡会 市川 信子

化学物質過敏症が重症となり、何とか助けてほしいと一縷ののぞみをかけて、昨年入会した患者の症例です。残念ながら今年3月に他界されました。心身ともに与えられた苦しみは筆舌につくせません。ご本人の遺志もあり発表いたします。

平成2年10月のシロアリ駆除後、私の人生は変わりました。駆除2～3日後、胸・胃上部・のどの焼けつく痛さが出現。シロアリ駆除した為と気づき、会社に電話したが「心配ない」と軽くあしらわれました。いつも窓・戸を開けてパートに出ていましたが、帰ると家の中は臭く胸は焼けるように痛みました。近所の人に臭いを嗅いでもらっても「臭わない。神経質すぎる」と言われていました。

そのうちに眠れなくなり不眠が続き我慢しながらも、家を開け放して辛くとも勤めに出ていました。1年くらいでその状態は治まり、シロアリ駆除したことはすっかり忘れてしまいました。年が明けてから、めまいに襲われ平衡感覚がなくなって右へ右へと行ってしまふようになりました。病院でMRIをうけましたが、結果は異常なしでした。だんだんうつ状態が出現し治ったり、うつになったりの繰り返しでした。

その後、毎年1度、めまいが4ヶ月位続くような状態で生活をしていました。体もだるく、物忘れもひどくなり始めたので、1日にあった事を日記に書くようにしました。

平成4年5月体がだるく、起き上がるのも大儀な状態が続いていました。しかしシロアリ駆除のせいとは全く思いもせず、駆除したこと自体も忘れていました。ある時は異常に眠く、体がだるく、胸骨あたりが痛く狭心症かと思い心電図をとるが、異常なしということもありました。あちこち体のどこかに異常がありましたが、体をだましだまし平成9年までシロアリ駆除した家で生活していました。

平成9年5月に1坪位の台所にシロアリ出現。前回のシロアリ駆除のこと、駆除後の自分の体が反応して出た症状のことをすっかり忘れ、またシロアリ駆除をしてしまいました。その直後、前回の症状よりひどい、胸の上部、のどの焼けただれるような痛みが表れ、夜も眠れない日が続きました。

そんな時、朝日新聞で化学物質過敏症のことを知りました。

平成9年7月、自宅を捨て、下の娘が住んでいるワンルームマンションへ、2人の娘に手伝ってもらい、布団や服など身の回りの物を持って移り、生活を始めました。8月に北里研究所病院の宮田医師の診断を受けました。「神経ではなく化学物質過敏症です。」と診断されました。あまりにも恐ろしい病気の診断を受け、ただ驚くばかり。病気に対しての薬、治療もなく、生活指導を受けて帰りました。

移った所はJR新幹線から80m位しか離れていない所で、毎日泣いて暮らしていました。うつ状態がひどくなり、何にでも敏感になりました。排気ガス、整髪料、ペンキ、クリーニング、香水、芳香剤など。臭いのあるもの全てと殺虫剤に体が反応するようになりました。新聞・雑誌など平成9年5月から読んだことのない状態です。出かける時もマスクを使用し、マンションに帰ってきてても胸が痛い。「何があるんだろう」と目で探している自分が悲しくなりました。辛いながらも気をつけて生活し、夕食の準備をして娘の帰りを待ち、いっしょに食事をするのが、唯一の楽しみでした。もちろん、娘は仕事が終わって自分の室でシャワーを浴び、着替えて私の室に来てくれました。

平成9年から13年1月までそのような生活が続きました。2月ごろマンションの南側の家が新しい家を建てるために壊されました。その家は何年か前にシロアリ駆除していた家だったので、一遍に暴露され、私の体は坂道を転がるように、悪くなっていきました。家にいると体がチクチク痛くなり、家にいられず不眠が続きました。そのうち、TVを観ていると気分が悪くなり、こたつに入るとイヤな気持ちになり、電話にもザワザワとイヤな気持ちになるようになりしました。ある方に電話して尋ねたところ「電磁波だからそこから逃げた方がいい」と言われたが、時すでに遅し、体が消耗して逃げる事が出来ませんでした。ひとまずウィークリーマンションに逃げ、娘が食事の差し入れを持ってきてくれる生活が続きました。家探しを2人の娘がしてくれましたが、どの室も家もリフォーム・クリーニングしてあるため、なかなか見つからず、やっと見つけた室も、15分も入っていませんでした。そのうち、娘に会っても体中チクチク痛くなり、会えなくなってしまいました。

並行して電磁波も感じていました。電磁波がないというので河津に避難し生活しましたが、塩素の水を使用していたので、体中メチャメチャになり、頭の中はカンカン鳴り、胸は痛く落ち着きなくイライラしてきました。そんな時、間がさしたのか、首をつってしまいました。気が遠くなる寸前に発見され、死ねない自分に泣き狂いました。いつまでも、そこにはいられず、嫁ぎ先の娘の家に帰ることになりました。しかしその家は30m離れた所に鉄塔があるため、行きたくなかったのですが、行く所がないため行くことになりました。その娘にもシロアリ駆除剤が付いているらしく「痛くて、痛くて、離れて、離れて」の生活でした。娘の家の中を「イタイ、イタイ」と走りまわる毎日でした。食欲もなく、ミイラのようにやせこけてしまいました。娘は少しでも栄養のある物を食べさせようと作っては持って来てくれるのですが、近寄ると痛くて「離れて、離れて」という日々が続きました。下の娘にも会うとチクチク痛くて会えず、電話で声を聞くのが精一杯でした。娘の家にも自分で持ってきたシロアリ駆除剤や娘に付いているシロアリ駆除剤が服に付いてしまっていて、下着や着る物が着られなくなる始末でした。生きているのが辛く、ためておいた安定剤を飲みました。

2度目の自殺を図るが、運悪く発見され、気が付くと病院のベッドでした。またまた死ねない自分に情けなくなり、娘と抱き合って泣きました。「寿命が来なければ死ねないよ」と諭されました。

平成13年6月と11月に北里研究所病院で入院治療をしましたが、今一つはっきりした効果がみられず、今は30m先の鉄塔の高圧線からの電磁波に苦しめられています。北里病院で薬をいただいて飲んでいますが、夜も眠れず頭もはっきりせず、食欲もなく、経済的にもゆとりなく、引っ越すことも出来ず、辛い毎日を過ごしています。電磁波は本当に辛い。家庭電化製品にも感じ、生きたこちしない毎日です。1日も早く死にたい気持ちで一杯です。しかし、高橋さんに「生まれる時も医者にかかり、死ぬ時も医者にかかって死ぬのが人の道だから」と諭されました。今、苦しみながらも生きています。

事務局

〒108-8638

東京都港区白金台4-6-1

国立保健医療科学院 建築衛生部 健康住宅室 鈴木 晃・阪東美智子

TEL 03-3441-7111 内276 FAX 03-3446-4723

★事務局不在のことが多いので、ご連絡はなるべくFAX でお願ひします。